JAPANESE DESPATCHES.

THIRD YEAR COURSE.

VOL. II.

特別
カ5
6005
6

第一

以書翰致啓上候陳者貴國陸軍砲兵監本年秋期東洋視察ノ際帝國海陸軍ノ兵器廠参觀許可願出ノ件ニ關シ客月二十九日附第九九號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候右ハ早速海陸両省ヘ及移牒置候處今般海軍省ヨリハ差支無之候ニ付参觀希望ノ場所及期日決定相成候上ハ承知致度旨又陸軍省ヨリハ外國人ノ砲兵工廠参觀ハ一般ニ謝絶致居候得共貴我特別ノ関係ニ鑑ミ右特ニ許可致スヘク

6
DS
6005
(6)

This volume is the property of H.M.Embassy Tokyo, and should be returned to the Japanese Chancery when done with.

It is requested that the text should not be marked in any way.

尚同官到着時日決定致候ハヽ承知致度旨回答有之候間右様御承知相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年九月十六日

外務大臣男爵牧野伸顯

大不列顛特命全權大使

サー、ウヰリアム、カニンガム、グリーン閣下

特製10 喜多川紙店

第二

以書翰致啓上候陳者貴國軍艦及上海間ノ通信ハ佛國無線電信裝置ヲ利用セラレ居候處右ノ通信カ帝國軍艦ノ無線電信ト甚シク混信スル趣ヲ以テ之ヲ防止セムカ為日佛兩無線電信裝置ノ間ニ專用時間協定方本月八日附貴翰ヲ以テ御提議相成致敬承候右ハ直ニ海軍省ヘ及移牒置候處上海方面ニ於テハ既ニ従前ヨリ各國海軍指揮官ノ間ニ其無線電信專用時間ヲ協定シ相互ノ混合防害ヲ避

ケ居ル筈ナルモ尚ホ為念第三艦隊及馬公要港部両司令官ニ對シ上海方面ニ於ケル英佛間ノ無線電信ヲ覺知シタルトキハ可成當方ノ通信ヲ遠慮シ混信セシメサル様注意スヘキ旨電訓シタル趣海軍大臣ヨリ回答有之候間右ニ御承知相成度候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正三年八月十五日

特製10喜多川紙店

外務大臣男爵加藤高明

大不列顛特命全權大使

ライト、オノラブル、サー、ウィリアム、カニンガム、グリーン閣下

第三

以書翰致啓上候陳者日英両國軍艦ノ為捕獲若ハ抑留セラレタル船名ヲ両國政府ニ於テ毎週一回相互ニ通牒スルコトト致度旨及英國人所有ノ無害貨物簡易解放取扱方ニ付御承知相成度旨八月二十七日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候

御来示ノ趣直ニ海軍省ヘ及移牒候處八月二十八日迄ニハ帝國軍艦ノ為ニ捕獲セラレタル外國商船一隻モ無之而シテ

特製10 喜多川紙店

捕獲若ハ抑留シタル商船々名ノ通知ヲ貴國政府ト交換スルコトハ海軍省ニ於テ異存無之ニ付其都度當省ヲ經テ御通知可致旨及戰時禁制品ニ非サル英國人所有ノ貨物ハ拿捕シタル船舶ヲ捕獲審檢所ニ引渡シタル上ニテ捕獲審檢所ニ於テ解放差支ナシト認メタルトキハ出來得ル丈速ニ解放スルノ措置ヲ講スヘク相互條件ノ下ニ解放ノ際ニハ豫メ附近ノ英國領事官ニ通知シ委細ノ件ヲ打

特製10 喜多川紙店

合ハスコトトスルモ差支無之旨同省ヨリ回答有之候間右ニ御承知相成度候右申進旁本大臣ハ茲ニ重子テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正三年九月二日

外務大臣男爵加藤高明

大不列顛特命全權大使

ライト、オノラブル、サー、ウヰリアム、カニンガム、グリーン閣下

第四

覺書

英國政府カ十月一日英國大使閣下ヨリ外務大臣ニ手交セラレタル同日附覺書ヲ以テ青島攻擊ニ從事セル帝國陸海軍患ノ為メ其ノ病院船ヲ提供センコトヲ申出テラレタルハ帝國政府ノ深謝スル所ナリ外務大臣ハ右英國政府ノ好意ヲ早速陸海軍大臣ニ通報シ其意見ヲ求メタルニ海軍省ニ於テハ差當リ病院船增加ノ必要ヲ認メサル趣ナルモ陸軍省ニ

特製10 喜多川紙店

於テハ目下使用シ居ル二隻ノ病院船ニテ當時ノ患者輸送ニハ差支ナキモ戰傷者多數發生等ノ場合ニハ更ニ輸送力增加ノ必要ヲ生スルコトアルヘキニ付其ノ節ニハ英國傷病者後送ノ餘力ヲ以テ臨時幇助ヲ受ケンコトヲ希望スル趣ナルニ付帝國政府ハ右ノ趣旨ニ於テ感謝ヲ以テ英國政府ノ好意ヲ受クルコトニ決定セリ尚該病院船ハ何レノ場合ト雖膠州灣附近ノ行動ニ付テハ帝國封鎖艦

特製10 喜多川紙店

隊指揮官ノ指示ヲ受クヘキモノト承知アランコトヲ希望ス

大正三年十月十四日

第五

以書翰致啓上候陳者在横濱貴國臣民ノ組織ニ係ル日本法人ニ對シ市税賦課強徴ノ件ニ関シ本月六日附貴翰ヲ以テ御來示ノ趣致敬承候貴翰ニ依レハ今回問題ト為リタル貴國人組織ノ日本法人ハ英國商會ナル趣ノ處同法人カ日本法人ニシテ且同時ニ英國商會タルカ如キ二重ノ資格ヲ有スル事實ハ帝國政府ノ認メサル所ニ有之而シテ右ノ議論ハ兎ニ角苟クモ日本ノ法律ニ依リテ設立セラ

特製10 喜多川紙店

レタル法人即チ日本法人ナル以上該法人ハ全然帝國政府ノ管轄スル所ニシテ從テ其處分ハ本邦官憲ノミノ專ラニ決スヘキ筋合ト存候

將又本件課税及徴收カ貴我ノ間ニ成立セル協定ニ背反セル旨御記載相成候ヘ共客月三十日附本大臣ノ書翰ニ詳述セルカ如ク永代借地權者ヨリ正當ニ徴收シ得ヘキ諸税ニ關シ帝國政府ニ於テ徴收ノ權利ヲ抛棄セルカ如キ協定カ成立

特製10 喜多川紙店

シテ既ニ其效力ヲ發生セリト爲スハ帝國政府ノ承認難致處ニ有之右ハ本件日本法人ニ對スル課税問題トハ何等關係ナキモ爲念申添候

右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正三年七月二十日

外務大臣男爵加藤高明

大不列顛特命全權大使

ライト、オノラブル、サー、ウヰリアム、カニンガム、グリーン閣下

第六

以書翰致啓上候陳者豫而貴國政府ノ提議ニ係ル一國軍艦ノ他國港灣ニ於ケル禮砲發射方ニ関シ國際協定ヲ為スノ件ニ付重テ帝國政府ノ意見御問合ノ義ニ関シテハ本年三月三十一日附送第三六號ヲ以テ一應ノ回答申進置候處一國ノ軍艦カ他國ノ港灣ニ入港シタルトキ毎回其ノ國旗ニ對シテ禮砲ヲ施行スルコト並ニ他國ノ港灣ニ入港セル軍艦カ一時出港ノ場合ニ於テハ當該地方官憲ト

特製 10 喜多川紙店

協議ノ上再入港ノ際ニ於ケル禮砲施行ヲ省略スルヲ得ル件ヲ追加スルコトハ帝國海軍省ノ同意スルトコロニ有之候旨海軍大臣ヨリ申越有之候間右樣御承知相成度尚又前任大臣内田子爵ヨリ客年三月二十七日附「サー、クロード、マクドナルド」大使宛送第三一號後段ヲ以テ申進置候軍港要港中竹敷及永興ノ二ケ所ニ於テハ今般陸上ヨリ答砲スヘキ設備ヲ廢止シタルニ付禮砲交換ニ關シテハ右

特製10 喜多川紙店

二ケ所ハ軍港要港以外ノ港灣ト同樣タルヘキ旨同大臣ヨリ申添有之候間是又右樣御承知相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年五月十四日

外務大臣男爵牧野伸顯

大不列顛特命全權大使

サー、ウヰリアム、カニンガム、グリーン閣下

第七

以書翰致啓上候陳者本年十一月倫敦ニ於テ開催セラルベキ海上ニ於ケル生命保全ニ関スル萬國會議ノ件ニ関シ本月十三日附第一一九號貴翰ヲ以テ重ネテ御申越ノ次第有之右ニ對シテハ本月十五日附通送第一三五號ヲ以テ一應ノ御回答方取計置候處今般関係官廳ヨリ右ハ頗ル有益ノ會議ト被認候ニ付帝國政府ニ於テモ海運國トシテ之ニ賛同シ代表者ヲ参列セシムルコト最モ希望スル

特製10 喜多川紙店

所ニ有之候ヘ共今回ノ催タルヤ賛同各國ハ全權ヲ付與シタル委員ヲ參列セシメ其ノ議決シタル協約ノ規定ハ各國ニ於テ立法的及行政的ニ效力ヲ實現セシムベキモノナルヲ以テ其ノ關係頗ル重大ニシテ右委員派遣ノ爲ニハ關係事項ニ付充分調査ヲ重ネテ一定ノ方針ヲ指示スル必要有之候處此ノ如キ調査ヲ完了スルニハ相當ノ時日ヲ要シ到底來ル十一月十二日開會ノ間ニ合ヒ得ベキ樣

特製10 喜多川紙店

認メラレズ候ニ付乍遺憾今回ハ全權委員ノ派遣方見合セ候次第ニシテ主義ニ於テハ充分賛成スル所ニ有之候旨申越候間右ノ事情貴國政府ニ於テ御了悉相成候樣傳達方可然御配慮相煩ハシ度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年十月三十日

外務大臣男爵牧野伸顯

大不列顛特命全權大使
サー、ウイリアム、カニンガム、グリーン閣下

特製10喜多川紙店

第八

覺書

帝國政府ハ支那ニ於ケル工業所有權ノ相互保護ヲ目的トスル日英條約締結ノ件ニ關シ本年二月十日付ヲ以テ在東京英國大使館ヨリ送付セラレタル覺書ヲ愼重ニ閲悉セリ

帝國政府ハ過去數年ニ渉リ兩國政府間ノ懸案タル本件ノ交渉ヲ速カニ完結セシムルコトニ關シテハ固ヨリ英國政府ト其希望ヲ同フスルモ奈何セン帝國政

府ハ客年十月廿二日付機密信第二号ヲ以テ内田前任外務大臣ヨリ在東京英國大使閣下ヘ詳細開陳シ置キタル如キ理由ノ存スルカ為メ無登録商標ヲ登録商標同様ニ保護スルノ規定ヲ條約中ニ存置セシメントスル英國政府ノ意見ニハ遺憾ナカラ同意スルコト能ハス蓋シ其理由ハ曩ニモ疏明セシ如ク我現行法制ハ登録主義ヲ採用シ無登録商標ニ對シテハ其保護ヲ認メス隨テ若シ英國政府

特製10 喜多川紙店

希望ノ如ク無登録商標ヲ保護スルノ規定ヲ設ケムカ其結果ハ我法制ノ根本主義ヲ破壊シ帝國臣民ハ我法規ノ下ニ於テ登録商標ニ関シテノミ保護ヲ享クルニ拘ラス英國臣民ハ啻ニ登録商標ノミナラス無登録商標ニ関シテモ亦我官憲ヨリ保護セラルルノ奇観ヲ呈スルニ至ルヘク換言スレハ英國臣民ハ商標ニ関シ支那ニ於テ帝國臣民カ我法制上享クル保護ニ比シ一層廣キ範圍ノ保護ヲ享

クルコトトナリ内外人間權利ノ權衡ヲ紊スニ至ルヘケレハナリ

前顕ノ理由存スル為メ帝國政府ハ深ク英國政府ノ希望ヲ容ルルノ餘地ナキヲ遺憾トス

大正二年三月二十九日

特製10 喜多川紙店

第九

以書翰致啓上候陳者朝鮮各國居留地整理ノ件ニ關シ客年八月二十八日附ヲ以テ申進置候處右整理ニ關スル下協議會ハ關係各國領事官ト朝鮮總督府當該官トノ間ニ本年二月十七日ヨリ開催セラレ四月十四日マテ數回ノ會合ニ於テ十分ニ意見ヲ交換シタル末一ノ議定書ヲ作成シ全會一致ヲ以テ之ヲ可決致候儀ハ當該領事官ヨリノ報告ニ依リ既ニ御承知ノコトト存候

前記八月二十八日附書翰中ニ「下協議會ニ於テ整理案協定セラレタルトキハ之ヲ基礎トシテ帝國政府ト關係國政府トノ間ニ商議ヲ盡シ其上ニテ確定ノモノト致度」旨申述置候ニ就テハ今ヤ前掲議定書ヲ基礎トシテ貴我兩國間ニ商議ヲ開始スルノ時機ニ相達シ申候

仍テ帝國政府ニ於テ前記議定書ヲ篤ト調査致候處朝鮮總督府ノ原案ハ帝國政府ノ見ル所ヲ以テスレハ既ニ極メテ寛

特製10 喜多川紙店

大ナリシニモ拘ラス下協議會ニ於テ其ノ儘採用セラルルニ至ラス爲メニ總督府カ更ニ讓歩ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至リタルモ各關係國領事官ニ於テモ常ニ妥協ノ精神ヲ以テ協議ニ從事シタルモノナルコトハ帝國政府ノ信シテ疑ハサル所ニ有之候就テハ帝國政府ニ於テハ今回協定ニ至リタル議定書ニ對シ各關係國政府ト共ニ書翰往復ノ形式ニ依リ之ヲ其儘是認シ以テ本件ヲ結了セム

コトヲ致希望候
就テハ貴國政府ニ於テモ帝國政府ノ希望ニ御同意相成前記京城ニ於テ調印ノ議定書御調査ノ上其儘之ヲ是認相成候樣致度且右是認ノ趣ハ本翰ニ對スル御回答トシテ至急御通報相成度致希望候
右申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年八月二十七日

外務大臣男爵牧野伸顯

特製10 喜多川紙店

大不列顛特命全權大使
サー、ウヰリアム、カンニンガム、グリーン閣下

第十

以書翰致啓上候陳者本月十七日付貴翰ヲ以テ貴國政府ハ實業借款ノ關スル限リ最早一九一二年六月二十日ノ六國團規約ノ規定ニ拘束セラルヽコトナク將來支那ニ於ケル實業的企圖ニ關シ一般企業者ニ對シテモ無條件ニ援助ヲ與フルノ自由ヲ有スル義ト思料セラルル旨貴國外務大臣ノ訓令ニ基キ御通告ノ趣致閲悉候

曩ニ貴國政府ハ去ル一月二十九日付覺

特製10 喜多川紙店

書ヲ以テ支那ニ於ケル實業借款ヲ或條件ノ下ニ六國團規約ノ範圍ヨリ除外スルノ件ニ關シ帝國政府ノ意見ヲ問合セラレタルニ付帝國政府ハ關係各國政府間ニ於テ一致ノ協定ニ依リ始メテ成立スヘキモノトノ了解ノ下ニ之ニ同意スヘキ旨回答致置候處其後更ラニ貴國政府ヨリ五月二十三日付覺書ヲ以テ實業借款除外ニ關シ條件ヲ設クルコトハ關係國政府中異論ヲ唱フル向アルニ付五

特製10 喜多川紙店

國ハ無條件ニテ實業借款ニ關シ自由行動ヲ執ルコト、ナスノ外途ナカルヘキ旨御申出ニ接シタル次第アリシカ元來帝國政府ニ於テハ支那借款問題ニ關シテハ可成關係諸國ト歩調ヲ共ニスルノ方針ナリシヲ以テ右貴國政府ノ御申出ニ對シテモ同意ノ旨回答致シタル義ニ有之候然ル處右無條件除外ニ對シテモ五國團体中異議ヲ唱フルモノアリタル爲メ本件ハ未決ノ儘今日ニ立到リ候折

柄今回前記ノ如キ御通告ニ接シ貴國政府ノ御方針正ニ致了承候帝國政府ニ於テモ實業借款ヲ無條件ニテ六國團規約ノ範圍ヨリ除外スルコトハ固ヨリ異存ナキ所ナルヲ以テ來ル二十六日巴里ニ於テ開催セラルヘキ銀行團會議ニ際シ帝國團代表者ヲシテ右無條件除外ニ賛同セシムルコトニ決定致候條右樣御了知相成度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

特製10 喜多川紙店

大正二年九月二十三日

外務大臣男爵牧野伸顯

大不列顛特命全權大使

サー、ウィリアム、カニンガム、グリーン閣下

第十一

以書翰致啓上候陳者印度ニ於ケル日本郵船會社ト英國汽船會社トノ競争ノ件ニ關シ曩ニ御來話ノ次第有之尚本件ニ關シテハ其以前貴國外務大臣ヨリ前駐英帝國大使ヘ覺書ヲ以テ御申出ノ儀モ有之候ニ付旁帝國政府ニ於テハ本件ニ對シ最モ慎重ナル考量ヲ加ヘ候處英國政府ノ希望セラルル如ク外國船ニ對シ沿岸貿易ヲ許可スルノ件ニ關シ立法ノ手續ヲ執ルノ儀ハ帝國ノ一般政策ニ關

特製10 嘉多川紙店

スル問題ニシテ俄ニ詮議致兼候次第モ有之候ノミナラス假令相互ノ條件ヲ以テ之ヲ許可スルコトトナスモ帝國カ歐米諸國ト締結セル條約ニハ凡テ沿岸貿易ニ関シ最惠國待遇ヲ與フルノ條款ヲ有シ居リ候結果右等諸外國中ニハ我レニ對シ沿岸貿易ヲ許サザルモノアルニ拘ラス我レノミ彼ニ對シ之ヲ許サザルヲ得ザルコトト可相成且ツ到底帝國議會ノ協賛ヲ得ルノ望モ無之爲メニ此點

ニ関シテハ乍遺憾御希望ニ應ズルヲ躊躇致サザルヲ得サル次第ニ有之候然レドモ本件ハ元來營業上ノ利害ニ関スル問題ニ有之當事者相互ノ意思ト態度ノ如何ニ依テハ両者直接ノ交渉ニ依リ自然穏當ナル解決ノ途ヲ發見スルコトヲ得サルニモ非ルベシト思考致サレ候ニ付キ英國政府ニ於テ當該英國汽船會社ニ對シ我ト同樣ノ手段ヲ執ルコトニ御同意ナルニ於テハ帝國政府ハ日本郵船

會社ニ對シ交讓ノ精神ヲ以テ當該英國汽船會社ト充分妥協ヲ遂ゲ雙方ニ滿足ナル解決ノ途ヲ發見スルノ擧ニ出デンコトヲ勸告スルニ躊躇セザルベク候間閣下ニ於テ右ノ趣英國政府ノ考量ニ附セラレ候樣致度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年五月十六日　外務大臣男爵　牧野伸顯

大不列顛特命全權大使
サー・ウヰリアム、カニンガム、グリーン閣下

特製10 喜多川紙店

第十二

以書翰致啓上候陳者外國人保險事業ニ關スル大正元年十二月二十六日勅令第五十七号ニ關シ本月三十日附覺書ヲ以テ御申越ノ次第ハ早速主務官廳ヘ及照會候處右勅令ノ二月一日ヨリ施行セラルヘキコトハ法文ノ明規スル處ニシテ行政官廳ニ於テ自由裁量ヲ爲スノ餘地ナキ旨回答致來リ候ニ付乍遺憾右樣御諒承相成度候尚右勅令中新ニ會社ニ義務ヲ命セラレタル事項ノ主要ナルモノ

ニ就テハ夫々猶豫期間ノ定メ有之例之改正勅令ノ主眼トスル増供託金ノ納付期限ニ関シテハ勅令附則第五條第二項ニ依リ主務官廳ニ於テ其期限方法等ヲ指定スルコトト相成居候處同官廳ニ於テハ之ニ二箇年ノ猶豫ヲ與ヘ其半額ハ二月一日以後一ヶ年内ニ其残額ハ次ノ一箇年内ニ供託セシムル豫定ニ有之又保險証券ノ様式及普通保險約款等ノ認可申請ニ就テハ一箇年間ノ猶豫ヲ附與

特製10 喜多川紙店

シアリ（勅令附則第六條）又會社ノ提出スル事業報告書ノ書式ニ就テハ新令施行後二箇年間月報ノ書式ニ就テハ六箇月間ノ猶豫期間ヲ附與シアル（農商務省令第三十号附則第二十一條）等右勅令ハ會社ニ對シ何等急迫ノ要求ヲ為シ居ラサル次第ハ充分御了知相成候様致度旨並ニ貴覺書中伊藤保險課長代理カ右勅令ハ適當ニ通知セラルル迄ハ必スシモ適用セラレサルヘク云々ト陳ヘタリトア

ルハ多分供託金ニ關スル說明ヲ取リ違ヘラレタルモノト被認候旨申添有之候

右御回答旁本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年一月三十一日

外務大臣男爵加藤高明

大不列顛臨時代理大使

ホレース、ラムボルド貴下

特製10 喜多川紙店

以書翰致啓上候陳者在横濱外國人組織ノ日本法人ニ市稅賦課ノ件ニ關シ本年七月三十日附貴翰ヲ以テ御來示ノ趣致敬承候

右貴翰ハ帝國政府ニ於テ愼重ナル審議ヲ遂ケタルモ本年七月二十日附ヲ以テ本大臣ヨリ閣下ニ說明シタル帝國政府ノ見解ヲ覆スニ足ルヘキ論據ハ一モ發見難致候便宜ノ為左ニ帝國政府ノ見解ヲ反覆說明スレハ

一、本件ノ法人カ苟クモ日本法律ニ依リテ設立セラレタル法人即チ日本法人ナル以上其管轄及處分ハ帝國官憲ノミ之ヲ專行スル筋合ナルコト

二、千九百十二年八月七日附帝國政府ノ覺書ヲ以テ他ノ條件ト共ニ提出シタル或種ノ滯納税金ヲ取立ツル權利ヲ拋棄スヘシトノ條件ハ永代借地權問題解決案ノ不可分ヲ形成スルモノナルヲ以テ右解決案ノ全部ニ關シ貴我

特製10 喜多川紙店

ノ間ニ合意ノ成立セサル今日其不可分ナル一部分ノミカ獨リ效力ヲ發生セリト為スハ到底帝國政府ノ承認難致處ニシテ要スルニ帝國政府ハ未タ曾テ永代借地權者ヨリ其正當ニ徴收シ得ヘキ滯納税金ヲ徴收スル權利ヲ拋棄シタルコト無キコト

三、尤モ右第二ニ述ヘタル處ハ專ラ永代借地權者タル外國人ニ關スルモノニシテ本件外國人ノ組織セル日本法

人ニハ何等関係ナキコト
ニ有之候
然ルニ貴翰中ノ第一點ニ依レハ本件ニ関スル横濱市當局者ノ行爲ハ海牙仲裁々判所判決ニ違反セリト主張セラルルモ帝國政府ニ於テハ未タ曽テ日本法人ニ関スル問題ヲ仲裁々判ニ附シタルコト無之又千九百十三年三月迄永代借地權者ト外國人組織ノ日本法人トノ間ニ徴税ニ関シ毫モ差別ヲ設ケサリシヲ以

特製10 喜多川紙店

テ横濱市當局者ノ主張ハ現状ヲ變更スルモノニシテ目下進行中ノ商議ト相容レサルモノナル旨記載セラレ候處帝國政府ハ未タ曽テ日本法人ニ對スル課税權ヲ抛棄セサルカ故ニ毫モ現状ニ變更ヲ来ス次第ニハ無之候尤モ帝國政府カ現状維持ヲ約諾セル如キコトハ未タ曽テ無之ニ付孰レニスルモ之カ為目下進行中ノ永代借地權撤廢ニ関スル商議ニ故障ヲ及ホスヘキ理由ハ發見難致候

又普通日本法人ノ享有スルコトヲ得ル權利ニシテ外國人組織ノ日本法人カ享有スルコト能ハサルモノアルハ法制上已ムヲ得サル儀ニシテ之ヲ以テ帝國政府ノ徴税權ニ何等影響ヲ及ホス理由ト爲スニ足ラスト被存候

右ノ次第ニ付帝國政府ハ遺憾乍ラ貴翰ニ依ル御主張ニハ同意難致右回答申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

特製10 喜多川紙店

大正三年十一月二十八日

外務大臣男爵 加藤高明

大不列顛特命全權大使
ライト、オノラブル、サー、ウヰリアム、カニンガム、グリーン閣下

第十四

以書翰致啓上候陳者朝鮮産米及籾移入税廢止ニ関スル法律ニ付客月七日附第四一號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣敬承右篤ト考量ヲ加ヘ候處朝鮮ヨリ日本自体ヘ輸移出スル或種貨物ニ對シ輸移出税ヲ免除スルノ問題ニ付昨年一月二十九日附第一一號ヲ以テ閣下ノ前任者ヨリ内田子爵宛照會アリタルニ對シ二月二十六日附回答中ニ縷述セラレ居リ候通明治四十三年韓國併合ノ際ニ於ケル帝國

特製10 喜多川紙店

政府ノ宣言第二ハ畢竟朝鮮ナル地域ノ関スル限ニ於テ諸外國ノ經濟的利害ヲ攪乱セサル趣旨ニ外ナラザル義ニシテ先是貴國外務省「ラングレー」氏ヨリ加藤大使宛千九百十年八月三日附書翰ヲ以テ関税ニ関シテハ曽ニ朝鮮ニ於テ日本ニ對スルト外國ニ對スルトヲ區別セザルノミナラス日本ニ於テモ亦朝鮮ニ對スルト外國ニ對スルトヲ區別セサル樣提議アリタルニ對シ元來帝國政府カ韓

特製10 喜多川紙店

國ノ関税ヲ据置カレントスルハ全ク朝鮮ニ於ケル各國ノ經濟的利害ヲ攪乱セサルコトヲ期セルニ外ナラス然ルニ日本ニ於テ朝鮮ノ貨物ニ對シ他國ノ貨物ニ對スルト異ナル待遇ヲ與フルヤ否ヤノ如キハ事全然日本ニ関スル問題ニ屬シ併合ノ為日本自体ノ関税制度ニ此種ノ束縛ヲ受クヘキ理ナカルヘク帝國政府ハ目下朝鮮トノ貿易ト外國トノ貿易トノ間ニ何等差別的待遇ヲ為スノ意ナシ

ト雖モ此點ニ関スル帝國政府ノ自由ハ
十分ニ之ヲ留保セシコトヲ欲スル旨加
藤大使ヲシテ其當時貴國政府ヘ回答セ
シメタル事實ニ徴スルモ亦其趣旨明ナ
ル所ニ有之候

如上ノ理由ニ付本件移入税ノ廢止ハ前
掲帝國政府ノ宣言ニ抵觸スルコトナキ
ノミナラス帝國政府カ既ニ豫メ前記回
答中ニ於テ日本自体ノ税權ニ何等束縛
ヲ受ケサルコトヲ聲明シタルハ要スル

特製10 喜多川紙店

ニ今回ノ如キ移入税廢止ノ必要ノ生ス
ルコトナキヲ保シ難カリシニ因ル義ニ
有之候

御來示ニ依レハ英國商人カ朝鮮ノ不作
ヲ見越シテ外國米ヲ同地ニ輸入シタル
後、作柄ノ結果ニ依リ更ニ之ヲ日本自体
ニ再輸出セントスルガ如キ場合ニ本
件法律ハ朝鮮米トノ競争上之ヲ不可能
タラシムルモノナリトノ事ニ有之候處
此ノ如キ場合ハ假令想設シ得ルトスル

モ其實際ニ生スルコトハ極メテ稀ナルベク又實際生スルコトアリトスルモ斯ル場合ニ日本ヘノ移入上英國商人ノ蒙ルコトアルヘキ不便アルガ故本件法律ハ韓國併合ノ際ニ於ケル帝國政府ノ宣言ニ背反セリトハ上述ノ理由ニ顧ミ帝國政府ノ首肯スル能ハザル所ニ有之候

右様ノ次第ニテ外國米ヲシテ本件法律ノ利益ヲ享ケシムルコトハ到底出來兼候ニ付此段御了承相成度右貴答旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

大正二年五月二十一日

外務大臣男爵牧野伸顯

大不列顛特命全權大使

サー、ウヰリアム、カニングガム、グリーン閣下

特製10 喜多川紙店

い61538

特製10 喜多川紙店